

1. 目指す学校像

近畿大学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人の育成」を教育の目的としています。この「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要となる理念です。

2. 学校の努力目標

(1) 人間教育（生徒指導）

- ①身だしなみを整える、環境美化を意識する、適切なあいさつができる、人前で発言・返答ができる生徒を育成する。
- ②問題行動を未然に防ぐための事前指導を行う。教員・学校に対する信頼関係構築を目指し、日頃から、丁寧に大切に愛情をもって生徒と接する。
- ③SNSによるトラブル防止の為、講演会等を実施する。
- ④登下校において地域住民の方に迷惑がかからないよう、また交通事故防止のため、登校指導およびマナー指導を継続する。
- ⑤清掃指導を徹底する。

(2) 学習指導（教務）

- ①学籍管理システム BLEND の導入に伴い、出欠管理、成績管理、指導要録、調査書、個人成績表のペーパーレス、通知表のペーパーレスが運用できるよう整備する。
- ②新教育課程の周知徹底をはかる。
- ③定期考査時間割案を早期に提示し、計画的な休暇取得につなげる。
- ④教員全体がICT教育に関して高い意識を持ち、実際の授業で扱えるICT力を身に着ける。

(3) 進路指導（進路）

- ①大学入学共通テスト、近畿大学附属特別推薦入試に関する情報収集を行い、適切に生徒・教職員にフィードバックする。
- ②国公立大学・難関私立大学への進学実績を高める。共通テストの自己採点結果を踏まえて、効果的な分析会を実施する。
- ③近畿大学への進学率40%を達成できるように、近畿大学の魅力を生徒・保護者に伝える機会を設ける。
- ④難関大学・難関学部への合格者を出すために組織的な指導体制の確立を目指す。
- ⑤出願書類や共通テストの受験科目などのチェックについて、常にダブルチェックが行われる状況を作る。

(4) 健全な経営（校務広報）

- ①本校の魅力を地域に広報し、募集定員充足に向けて行事をマネジメントする。
- ②教員全体が募集定員充足という意識を持ち、常に生徒募集状況を発信する。
- ③生徒にとって「学びやすい環境」、教員にとって「働きやすい環境」をソフト・ハードの両面から考え、事務室と連携をとりつつ環境を整える。
- ④校舎内外の防災体制、避難訓練をはじめとする防災教育などに積極的に取り組み、教員、生徒共に防災意識の向上に努める。

- ⑤式典や新入生オリエンテーションなどについて、生徒・保護者・教員にとってより充実した、効率の良いものに改良する。
- ⑥行事の実施要項をより早期に発行し、内容の周知をはかる。
- ⑦安全安心な寮運営を目指す。
- ⑧寮生の自己管理を徹底させる。

(1) 人間教育（生徒指導）

本校では、生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目標に、人間教育の充実に努めた。全校一斉の身だしなみ指導や通常の校内清掃活動では担当教員が立ち合った。日常的な指導を通して、これらの基本的態度は概ね定着してきている。また、問題行動を未然に防ぐため、事前指導を重視するとともに、生徒との信頼関係構築を意識し、日頃から個別面談を積極的に取り入れた。その結果、問題行動はある程度抑制され、落ち着いた学校生活が維持された。さらに、SNS によるトラブル防止を目的として講演会等を実施し、生徒の情報モラル向上に努めた。一定の効果は見られるものの、引き続き継続的な指導が必要である。登下校においては、地域住民への配慮と交通事故防止の観点から、登校指導およびマナー指導を継続して実施した。概ね良好な状況であるが、年間数回程度のクレームが寄せられた。今後は、生徒の主体性をさらに高める指導を取り入れるとともに、個別対応の充実に努め、より一層の人間教育の推進に努めていく。

(2) 学習指導（教務）

本校では、教育の質向上と校務の効率化を図るため、ICT の活用および教育課程の円滑な実施に取り組んだ。まず、学籍管理システム BLEND の導入に伴い、出欠管理、成績管理、指導要録、調査書、個人成績表および通知表のペーパーレス化に向けた整備を進めた。これにより、校務の効率化が図られつつあるが、観点別評価と評定の不整合や入力ミスがあり、改善の余地がある。今後は教職員への研修を充実させ、円滑な運用体制の確立を図る。また、新教育課程については、校内での周知徹底を図り、教育内容の共通理解のもと授業実践に努めた。今後は実践事例の共有を進め、さらなる授業改善につなげる。

(3) 進路指導（進路）

本校では、生徒一人ひとりの進路実現を最重要課題と位置づけ、きめ細かな進路指導を展開している。大学入学共通テストや各種入試に関する最新情報を迅速に収集・共有し、生徒の状況に応じた適切な指導を行っている。その結果、国公立大学や難関私立大学への合格者を着実に輩出するとともに、安定した進学実績を維持している。特に、共通テスト後には詳細な分析会を実施し、一人ひとりに最適な出願戦略を提案することで、合格可能性を高めている。また、近畿大学への進学においても高い実績を誇り、大学の特色や魅力を伝える機会を充実させることで、生徒・保護者双方の理解を深めている。国公立大学にはのべ17名の合格、近畿大学にはのべ53名の合格実績を出した。さらに、難関大学・難関学部への挑戦を支えるため、ハイレベル講習を実施している。教員が連携した組織的な指導体制を構築し、チューター教員による個別指導や面接・小論文対策まで徹底的にサポートしている。

(4) 健全な経営（校務広報）

本校では、学校運営の充実と教育環境の向上を図るため、広報活動の強化、安全対策の推進および校内体制の整備に取り組んだ。まず、本校の特色や教育活動の魅力を外部に発信し、生徒募集の成功に向けて各種行事の企画・運営を行った。令和8年度の入学者数は中学1年生54名、高校1年生133名

合わせて187名となり、昨年度の183名を若干上回ったことから、広報活動は一定の成果を上げていると言える。また、教員全体が生徒募集に関わるという意識を高めるため、地区別の学校説明会や個別相談会を積極的に行った。さらに、生徒にとって学びやすく、教員にとって働きやすい環境づくりを目指し、ソフト・ハード両面からの整備を進め、事務室と連携しながら改善に取り組んだ。今後は現場の意見を反映した継続的な環境改善を推進する。防災面においては、校舎内外の安全体制の整備および避難訓練、防災教育を実施し、生徒・教職員の防災意識の向上に努めた。今後は実践的な訓練の充実と定期的な見直しを行う。加えて、式典や新入生オリエンテーションについて、生徒・保護者・教職員にとってより充実した内容となるよう見直しを行い、効率化を図った。今後は参加者の意見を踏まえ、さらなる改善を進める。また、各種行事の実施要項を早期に作成・発行し、内容の周知徹底を図った。今後はより計画的なスケジュール管理を行い、早期周知を一層推進する。